

2-3 中央部西地域

(1) 中央部西地域の現況特性

① 地域の概要・沿革

中央部西地域は、苫小牧市の都心部の西側に隣接する地域で、苫小牧川と製紙工場の間のおよそ2km四方の範囲に市街地が形成されています。苫小牧川が地域の西側を北から南に流れ、一部の区間で親水整備が行われ、パークゴルフなど多くの市民に利用されています。

JR室蘭本線より南側は、昭和30年代に青葉地区において公営住宅団地が整備され、昭和40年代後半からは高層住宅の群立する公営住宅団地と一般住宅地が整備されるなど本地域の特徴的な街並み景観が形成されています。

JR室蘭本線より北側は、昭和30年代後半から、土地区画整理事業を中心に計画的な住宅地整備が進められてきましたが、製紙工場の社宅街であった地区は、社宅が解体撤去されて以降未利用地となっています。

国道36号より南側の海岸線沿いの地区は、老朽家屋が多い旧市街地となっています。

② 人口・世帯数の状況

人口はこの10年間で12%も減少しており、全市的にみて最も人口減少率の高い地域となっています。高齢化率は28%と全市的に最も高く、高齢化が進展しています。

③ 都市基盤の整備状況

製紙工場が工業地域となっている他は、地域の大半が住居系の土地利用となっています。国道36号沿線、道道苫小牧環状線、三条通沿いに沿道利用型の店舗が立地しています。

JR青葉駅が通勤・通学で利用されているほか、主な幹線道路がバス路線となっており、都心部にも近く公共交通の便が良くなっています。

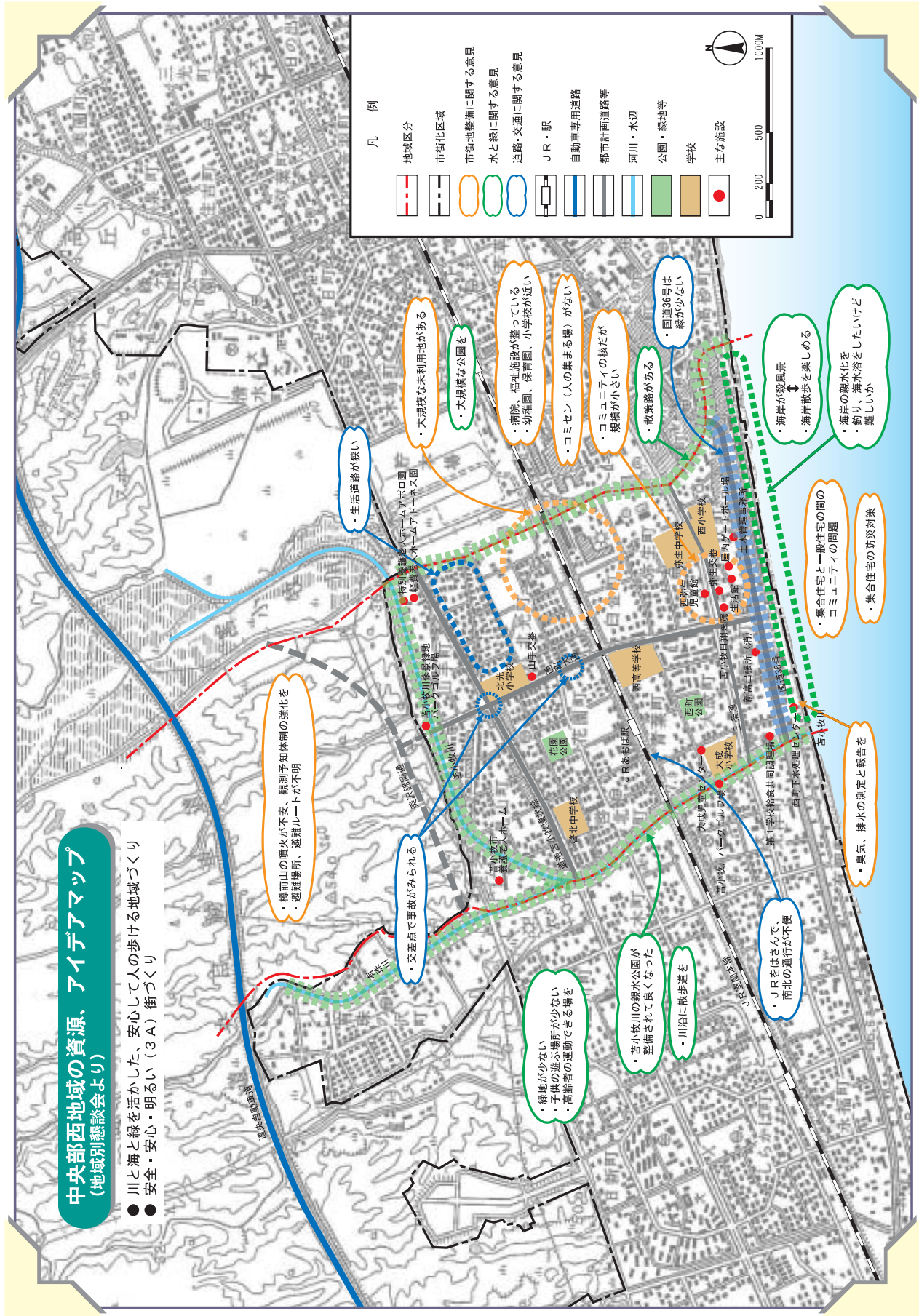
土地区画整理事業によって計画的に近隣公園、街区公園が配置・整備されていますが、整備されてから年数が経ち、老朽化している施設もあります。

その一方で、製紙工場の社宅であった一部を、同工場と共同で地区公園を整備しています。

西町下水処理センターが立地する他、北部に老人ホームなどの高齢者福祉施設も立地しています。

人口・世帯数の推移と高齢化の状況

地域名	人口		人口増減率 H12-22	世帯数		世帯増減率 H12-22	世帯人員数 人/世帯	高齢者	
	H12年	H22年		H12年	H22年			高齢者数	高齢化率
西部西	27,123	25,794	95%	10,588	11,492	109%	2.24	5,915	23%
西部東	45,871	42,335	92%	18,048	19,507	108%	2.17	9,817	23%
中央部西	26,360	23,324	88%	11,933	12,086	101%	1.93	6,489	28%
中央部中	43,289	41,644	96%	20,391	21,532	106%	1.93	8,849	21%
中央部東	12,682	12,730	100%	4,963	5,879	118%	2.17	1,821	14%
東部	17,842	28,311	159%	7,194	12,149	169%	2.33	3,380	12%
全市	173,167	174,138	101%	73,117	82,645	113%	2.11	36,271	21%



中央部西地域の資源、アイデアマップ
(地域別懇談会より)

- 川と海と緑を活かした、安心して人の歩ける地域づくり
- 安全・安心・明るい(3A)街づくり

凡 例

	地域区分
	市街区区域
	市街地整備に関する意見
	水と緑に関する意見
	道路・交通に関する意見
	JR・駅
	自動車専用道路
	都市計画道路等
	河川・水辺
	公園・緑地等
	学校
	主な施設

0 200 500 1000M

生活道路が狭い

- ・大規模な未利用地がある
- ・大規模な公園を

・綾師山の噴火が不安、観測予知体制の強化を
・避難増設、避難ルートが不明

・交差点で事故がみられる

- ・緑地が少ない
- ・子供の遊ぶ場所が少ない
- ・高齢者の運動できる場を

・小佐治川の親水公園が整備されて良くなった

- ・川沿に散歩道を

・JRをはきんで南北の通行が不便

・海岸が景風景

- ・海岸の親水化を
- ・釣り、海水浴をしたいけど難しいか

・集合住宅と一般住宅の間のコミュニティの問題

- ・集合住宅の防災対策

・臭気、排水の測定と報告を

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号)平16道復第329号

(2) 中央部西地域の主要な課題

- 計画的に整備された住宅地の良好な住環境の維持・保全を図ることや、未整備地区における良好な住環境の形成を図ることが求められています。また、苫小牧市の都心部に近接した地域として、まちなかにおける良好・良質な住環境整備を進めることが求められています。
- 地域の生活の拠点となる交流や医療・福祉機能が集積した地区の形成を図ることが求められています。
- 市内の東西を結ぶ地域として、中心市街地や東部の工業・業務地と西部地域を結ぶ東西方向の交通体系の整備を図ることが求められています。
- 苫小牧川の親水空間を、より市民に親しまれるよう充実させることや、製紙工場と住宅地間の緑地空間の形成を図ることが求められています。
- 地域住民の高いコミュニティ意識を活かした防災対策の充実、強化を図ることが求められています。

(3) 中央部西地域の将来像

川と海と緑を活かした、安全・安心・明るい地域づくり

都心部に隣接し比較的利便性が高いとともに、苫小牧川や海岸線などの水辺空間に恵まれた地域特性を活かし、地域が主体となった安心して暮らせるコミュニティづくりを図ることを基本に、地域の生活中心拠点の形成、地域住民が楽しめる公園や水辺の充実、及び道路・交通機能の充実を図り、安全で安心な明るい地域を目指します。

(4) 中央部西地域の整備方針

① 地域整備の考え方

道道苫小牧環状線、三条通、西町大通を地域の生活軸とし、JRを挟んだ南北間の連携強化を図りながら、各生活軸の交点を中心に、日常の生活利便施設とまちなかの集合住宅が複合的に集積する生活中心拠点形成ゾーンを配置します。

製紙工場の社宅街であった未利用地区、及び国道36号より南側の海岸沿いの旧市街地は市街地形成ゾーンとし、土地利用の転換などにより良好な住環境の形成を図ります。

美沢錦岡通、国道36号を東西方向の骨格的な交通軸とし、広域的な交通流動、通過交通に対応します。

地域を囲むように流れる苫小牧川沿いを水と緑の軸とし、水と緑に親しめる空間の形成を図ります。

② 部門別の整備方針

【土地利用の方針】

JR 室蘭本線の北側と南側に地域住民の日常生活を支える商業地の形成を図ります。また、それぞれの商業地を南北方向の西町大通によって連絡することにより、地域全体のサービスをより高めるよう促します。

また、周辺環境に配慮しながら、徒歩生活圏内に必要な生活関連サービス等の機能が整った利便性の高い住宅地の形成を図ります。

製紙工場の社宅街であった未利用地区、及び国道 36 号より南側の海岸沿いの旧市街地において、土地利用の転換などにより良好な市街地の形成を図ります。

【交通体系の整備方針】

通過交通に対応した主要幹線道路である美沢錦岡通と、それにアクセスする西町大通の整備を進めます。

生活軸に設定した道道苦小牧環状線、三条通、西町大通を中心に、バリアフリーへの配慮などによる誰もが安心して歩ける歩道の整備や、自転車専用レーンの設置を図ります。

【水と緑の形成方針】

苦小牧川の親水空間について、町内会での河川の清掃など地域住民の維持・管理活動への参加を促しながら、地域で愛着をもたれる水と緑に親しめる空間となるよう充実・整備を図ります。

住宅地に隣接する工場については、一層の緑化を進め、緑に囲まれた良好な工業地の形成に努めます。



苦小牧川

【都市施設の整備方針】

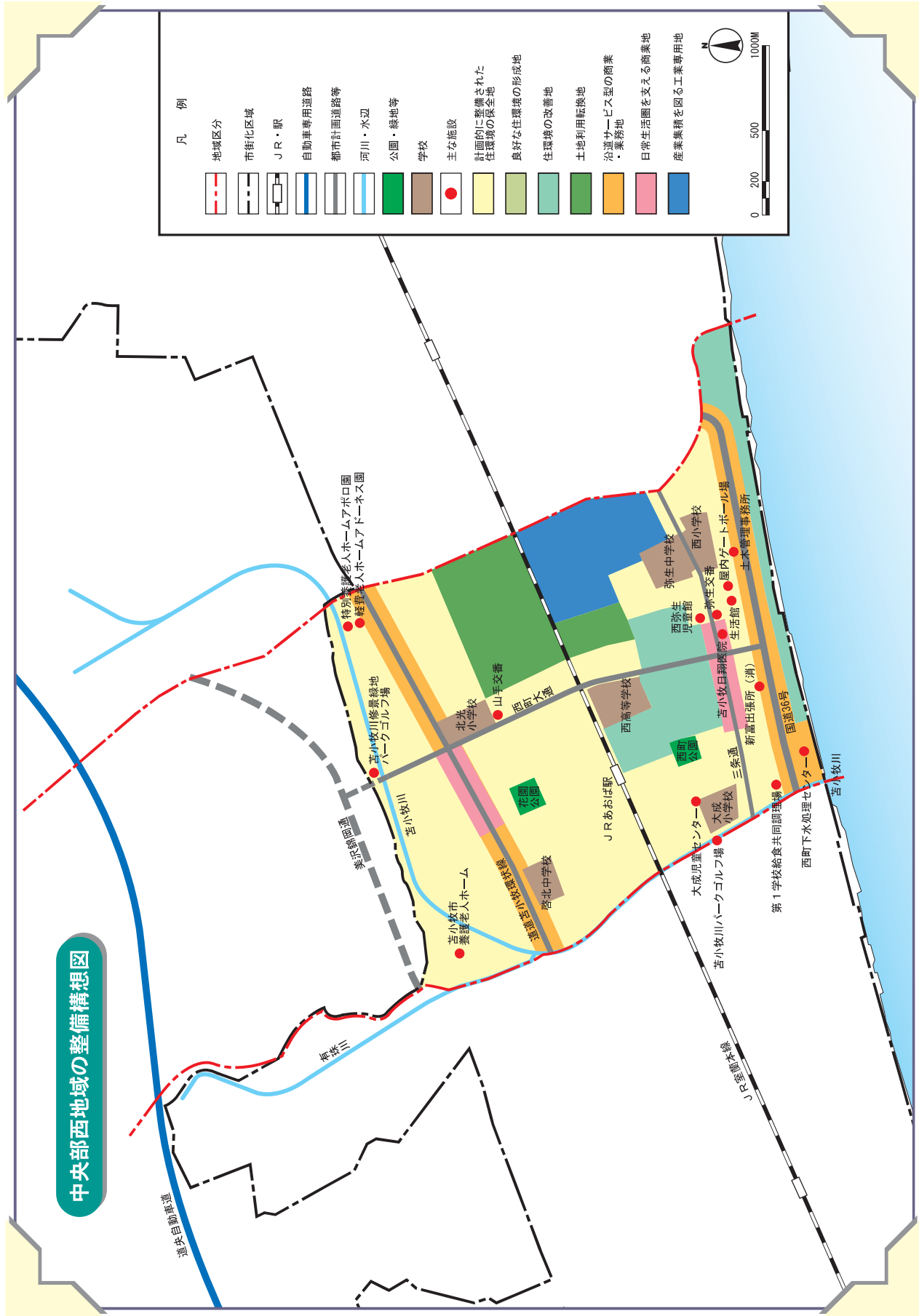
合流式下水道の分流化を進め、公衆衛生の向上や公共用水域の水質保全を図ります。

【都市防災の方針】

日常的な住民の交流機会や活動の場を積極的に提供・促進し、地域住民一人ひとりの防災意識と災害時の対応力の向上を図ります。

大規模工場に近接している地域として、企業、住民、行政が情報提供など相互に連携しあい、常に一体となって緊急時に行動できるよう取り組みます。

中央部西地域の整備構想図



凡 例

	地域区分
	市街化区域
	JR・駅
	自動車専用道路
	都市計画道路等
	河川・水辺
	公園・緑地等
	学校
	主な施設
	計画的に整備された住環境の保全地
	良好な住環境の形成地
	住環境の改善地
	土地利用転換地
	沿道サービス型の商業・業務地
	日常生活圏を支える商業地
	産業集積を図る工業専用地

0 200 500 1000M

2-4 中央部中地域

(1) 中央部中地域の現況特性

① 地域の概要・沿革

中央部中地域は、苫小牧市の都心として、商業・業務機能、官公庁施設の集積する中心業務地区とその周辺の高層・低層の住宅地及び苫小牧港（西港区）の物流機能等の集積する臨港地区とにより形成されています。

地域の多くは昭和30年代に土地区画整理事業によって整備された住宅地となっています。しかし、地域の西側では建物の老朽化と人口の流出、高齢化が進んでいます。

苫小牧駅の周辺地区は、昭和50年代前半に一部で市街地再開発事業も導入されて再整備されていますが、近年、空き店舗や空き地の増加により中心商店街の空洞化が進行しています。

臨港地区は倉庫、資材置き場、フェリーターミナルなどに利用されていますが、未利用地も多く、これらの有効活用が求められています。

② 人口・世帯数の状況

人口はこの10年間で若干減少しており、引き続き人口流出が続いています。一世帯当りの人数は1.93人と全市的に最も低く、世帯分離が進んだ地区といえます。高齢化率は21%と、全市平均と同様となっています。

③ 都市基盤の整備状況

JR 苫小牧駅を中心に大型商業施設が複数立地し、苫小牧市の中心商業地となっています。また、商業地域が音羽町・双葉町に、近隣商業地域が主な幹線道路沿いに指定されています。これらの商業地域の周辺が住居系の土地利用となっている他、西側に立地する製紙工場や臨港地区などが工業系の土地利用となっています。

JR 苫小牧駅とその周辺は、市営バスターミナルも立地する市内最大の交通結節点となっています。また、地域内で国道36号、国道276号、道道苫小牧環状線が交差するなど、本地域は市内の交通の要衝となっています。

緑ヶ丘公園、市民文化公園といった苫小牧市の中心的な公園が立地している他、市役所、市民会館、中央図書館、科学センター、総合体育館などの公共公益施設や、霊園、病院、市場など主要な都市施設のほとんどが立地しています。

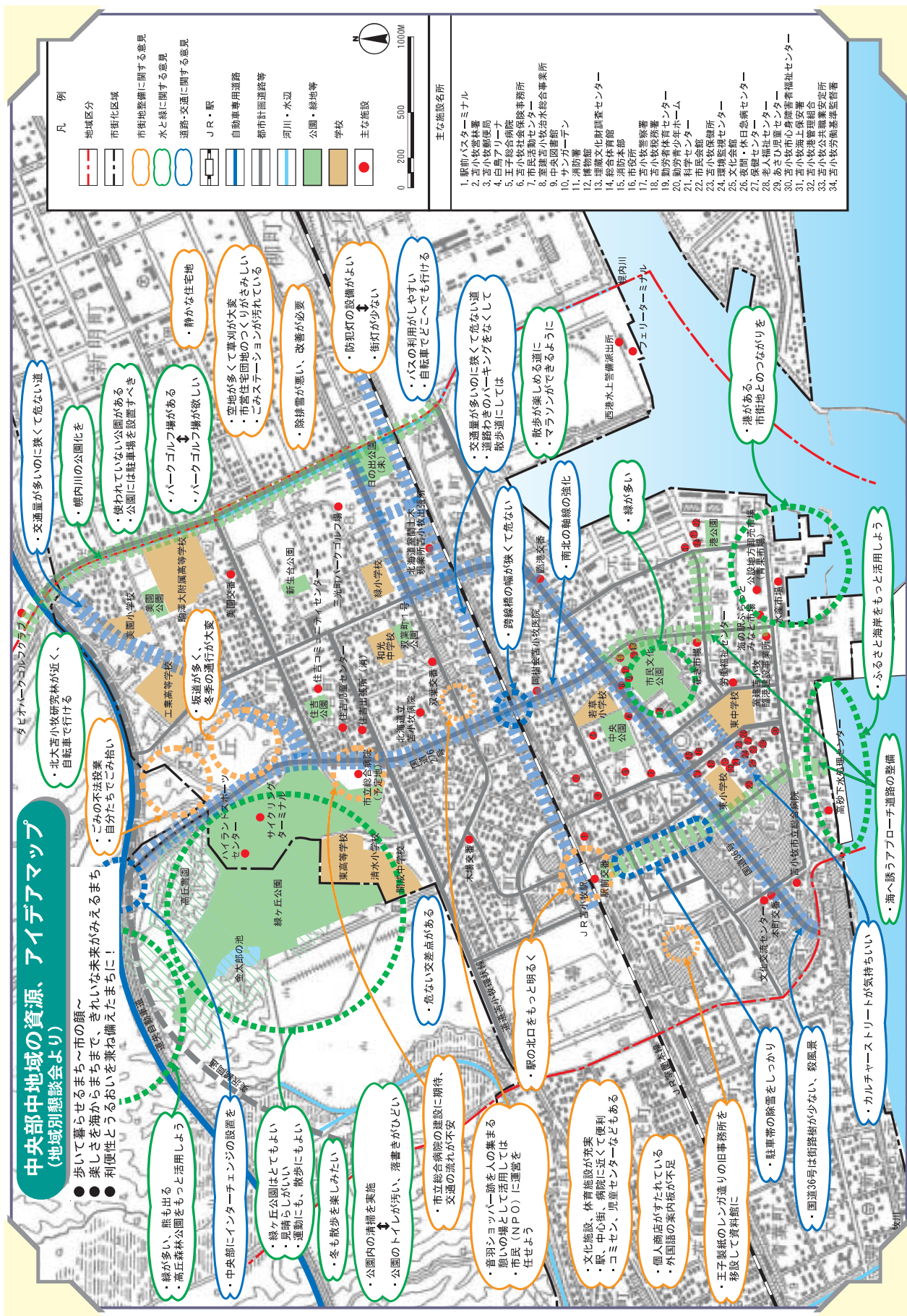
市立病院の移転に伴い、その跡地を高齢者福祉センター、子育て支援センター、健康支援センター、教育センターと共に、都市公園機能を併せ持つ複合施設として整備しています。

人口・世帯数の推移と高齢化の状況

地域名	人口		人口増減率 H12-22	世帯数		世帯増減率 H12-22	世帯人員数 人/世帯	高齢者	
	H12年	H22年		H12年	H22年			高齢者数	高齢化率
西部西	27,123	25,794	95%	10,588	11,492	109%	2.24	5,915	23%
西部東	45,871	42,335	92%	18,048	19,507	108%	2.17	9,817	23%
中央部西	26,360	23,324	88%	11,933	12,086	101%	1.93	6,489	28%
中央部中	43,289	41,644	96%	20,391	21,532	106%	1.93	8,849	21%
中央部東	12,682	12,730	100%	4,963	5,879	118%	2.17	1,821	14%
東部	17,842	28,311	159%	7,194	12,149	169%	2.33	3,380	12%
全市	173,167	174,138	101%	73,117	82,645	113%	2.11	36,271	21%

中央部中地域の資源、アイデアマップ (地域別懇談会より)

- 歩いて暮らせるまち～市の顔～
- 楽しさを海からまちまで、きれいな未来がみえるまち
- 利便性とうるおいを兼ね備えたまちに！



凡 例

- 地域区分
- 市街化区域
- 市街地整備に関する意見
- 水と緑に関する意見
- 道路・交通に関する意見
- JR・駅
- 自動車専用道路
- 都市計画道路等
- 河川・水辺
- 公園・緑地等
- 学校
- 主な施設

0 200 500 1000M

- 主な施設名所**
- 駅前バスターミナル
 - 吉小牧宮林書
 - 吉小牧郵便局
 - 白鳥アリーナ
 - 王子総合病院
 - 吉小牧社会保険診療事務所
 - 吉小牧社会保険センター
 - 産業吉小牧治水総合事業所
 - 中央図書館
 - サンガートーン
 - 消防署
 - 博物館
 - 環境文化財調査センター
 - 総合体育館
 - 消防本部
 - 消防本部
 - 吉小牧警察署
 - 吉小牧消防署
 - 吉小牧少年センター
 - 福祉センター
 - 再自会館
 - 吉小牧保健所
 - 環境センター
 - 文化会館
 - 夜間・休日急病センター
 - 福祉センター
 - あまひ児童センター
 - 吉小牧市心身障害者福祉センター
 - 吉小牧海上保安署
 - 吉小牧港管理組合
 - 吉小牧公共職業安定所
 - 吉小牧労働基準監督署

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号)平16道復第329号

(2) 中央部中地域の主要な課題

- 苫小牧市の都心部として、環境関連産業、研究開発型産業などこれからの産業の立地・集積を支える異業種間の情報交流、産業技術開発、人材育成、居住空間などさまざまな機能、施設の集積を図ることが求められています。
- 樽前山麓の丘陵地の森林と公園・緑地、太平洋の海岸及び港湾の景観といった「樹と海の恵み」を感じることができる、苫小牧市の顔となる空間づくりを進めることが求められています。
- 中心市街地及び港湾周辺の工業・物流集積地と高速道路とのアクセス性を向上させることや、通過交通を分離することで、生活利便性を高め、産業立地を誘導する交通体系の整備を図ることが求められています。
- 苫小牧市の都心として、全市的な緊急時の対応に係る防災対策の充実、強化を図ることが求められています。

(3) 中央部中地域の将来像

やさしさとうるおいのある、未来が見える苫小牧市の顔となる地域づくり

苫小牧市の都心部としてさまざまな機能集積を図るとともに、樽前山麓の丘陵地の森林と公園・緑地、太平洋の海岸及び港湾（特に漁港区）の景観といった「樹と海の恵み」を感じることができる魅力ある都市空間の形成によって、苫小牧市の顔となる地域を目指します。また、都心部としての利便性を兼ね備えた、やさしさとうるおいのある居住空間の質の向上を図ります。

(4) 中央部中地域の整備方針

① 地域整備の考え方

苫小牧市の中枢拠点として、様々な機能が集積した都市機能集積ゾーンの形成を図ります。また、市街地と海辺を結ぶ道路を景観形成ゾーンとし、「樹と海の恵み」を感じることができる都市空間の形成を図ります。

錦町周辺の古くからの店舗が多い商業地域は市街地形成ゾーンとし、土地の有効利用による都心型住宅の立地誘導等を図ります。

製紙工場は産業集積ゾーンとし、苫小牧市の基幹産業を支える環境調和型の工場として魅力ある都市空間の形成に資するものとします。また、苫小牧港周辺は流通業務ゾーンとして機能集積を図ります。

JR室蘭本線より北側の地区においては、道道苫小牧環状線、緑町二条通を地域の生活軸とし、徒歩圏を考慮しながら軸上に日常の生活利便施設が立地する生活中心拠点形成ゾーンを配置します。

東西方向と南北方向の骨格的な交通軸を設定し、北海道縦貫自動車道と南北軸との交点に中央インターチェンジを設置することにより、広域的な交通流動、通過交通に対応するとともに、港湾周辺の工業・物流集積地と高速道路とのアクセス性の向上を図ります。

緑ヶ丘公園、ふるさと海岸などの資源を活かしながら、水と緑の軸及び交流ゾーンの形成を図ります。

② 部門別の整備方針

【土地利用の方針】

苫小牧駅周辺、苫小牧停車場通沿道、市役所など公共公益的施設が集積する一帯を中心商業・業務地とし、都心部にふさわしいさまざまな機能集積を図ります。

中心商業・業務地を囲む一帯を商業施設や医療施設など都市的環境が整った都心型の住宅地とし、土地の有効利用と公共施設の整備改善などを一体的に進め、高齢者や若年層など多様な世代の居住の促進を図ります。

臨港地区は、港湾貨物需要に対応する工業地として、ふ頭背後の物流機能の集積を図るとともに、区域については土地利用動向を踏まえ適切な対応を図ります。また、漁港区周辺は、市民はもとより来訪者も海に親しむことのできる空間を兼ね備えた工業地の形成を図ります。

JR室蘭本線から北側は、計画的に整備された住環境の維持・保全を図るとともに、道道苫小牧環状線、緑町二条通、コミュニティセンターや商業施設などを中心に、地域住民の日常生活を支える商業地の形成を図ります。

【交通体系の整備方針】

北海道縦貫自動車道に新たなインターチェンジの設置を図ります。東西方向の主要幹線道路として美沢錦岡通の整備、南北方向の主要幹線道路として国道276号の整備を進め、骨格道路のネットワークの構成を図ります。

公共交通に関しては、交通結節点であるJR苫小牧駅及びバスターミナル周辺のバリアフリー化を重点的に進めます。

生活軸に設定した道道苫小牧環状線、緑町二条通を中心に、バリアフリーへの配慮などによる誰もが安心して歩ける歩道の整備や、自転車専用レーンの設置を図ります。

【水と緑の形成方針】

市場や係留された漁船が独特の風情をみせる漁港、あるいは整備された砂浜など、既存の資源を活かしながら、漁港区から「ふるさと海岸」を結ぶ一帯を水と緑の交流空間として整備を図ります。

また、これらの親水空間と都心部を結ぶ道路の沿道緑化を進めます。

【都市施設の整備方針】

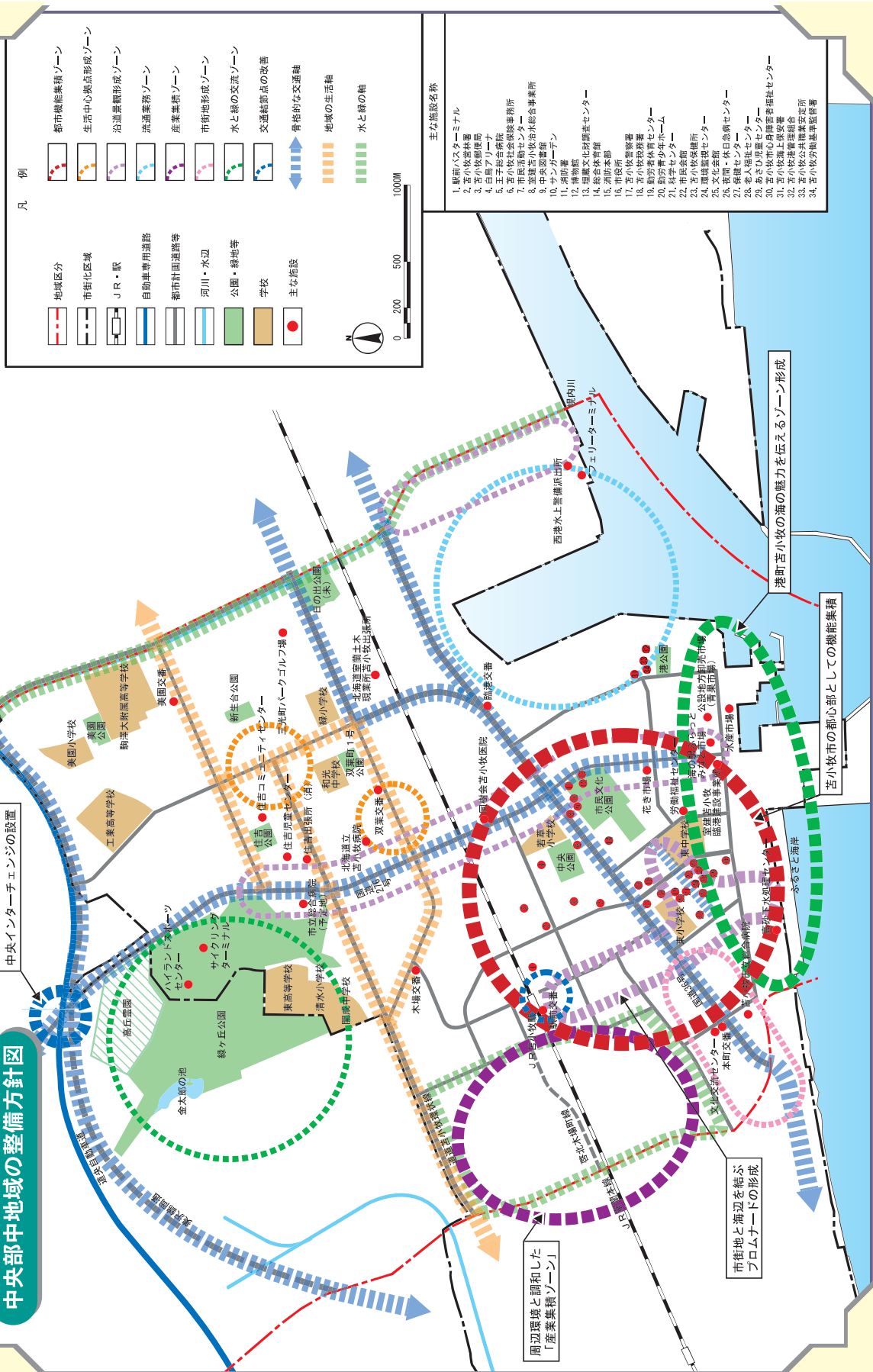
市役所など公共公益施設において、建物敷地の積極的な緑化やデザイン化された案内サインの設置などにより、緑豊かで魅力ある都心空間の形成を図ります。

合流式下水道の分流化を進め、公衆衛生の向上や公共用水域の水質保全を図ります。

【都市防災の方針】

全市的な緊急時の対応や防災対策として、防災公園に位置づけられた日の出公園の防災機能を維持するとともに、市立病院と緑ヶ丘公園が一体となった救急医療体制の充実を図ります。

中央部中地域の整備方針図



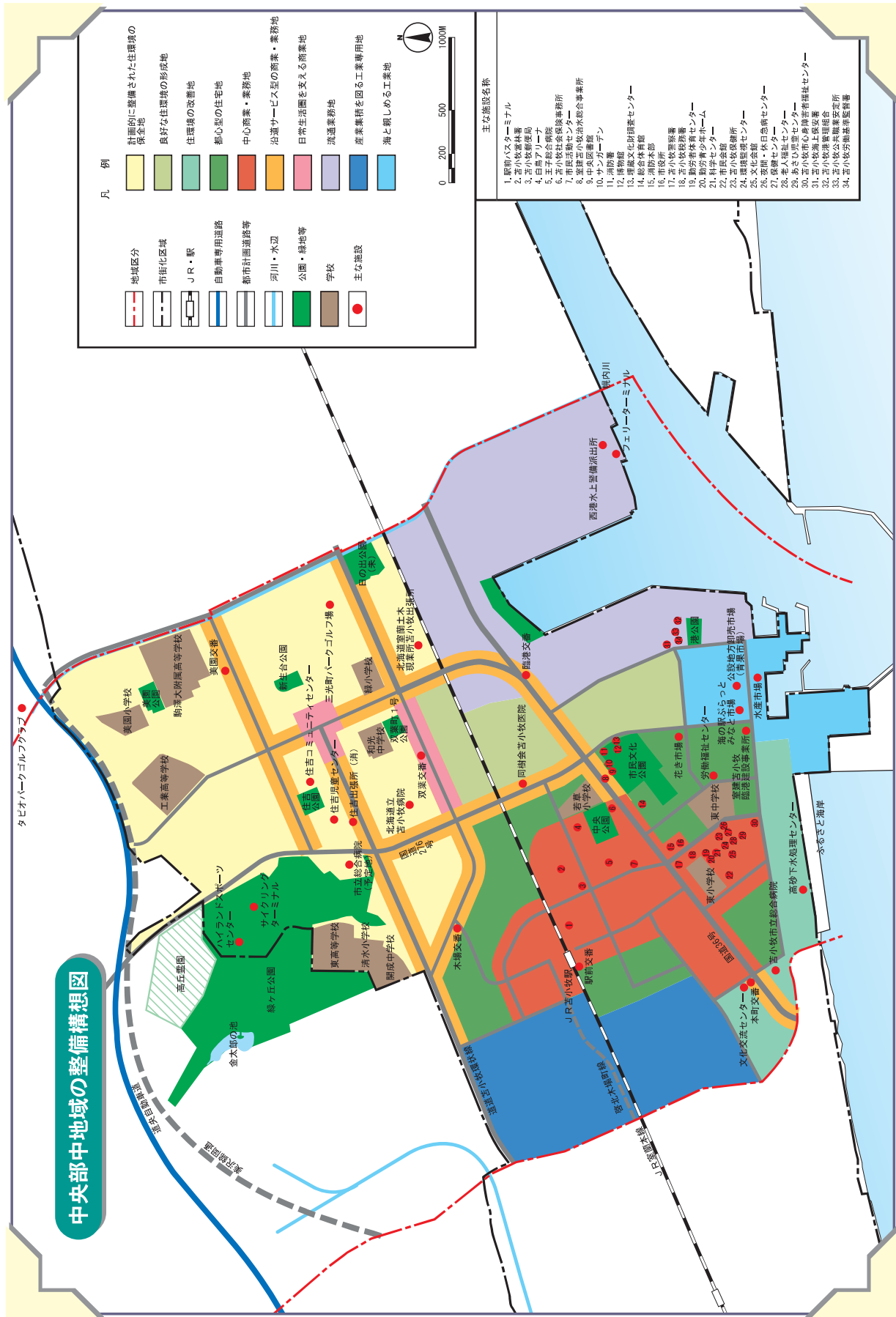
凡 例

	地域区分		都市機能集積ゾーン
	市街化区域		生活中心拠点形成ゾーン
	J・R・駅		沿道集積形成ゾーン
	自動車専用道路		流通業務ゾーン
	都市計画道路		産業集積ゾーン
	河川・水辺		市街地形成ゾーン
	公園・緑地等		水と海の交流ゾーン
	学校		交通結節点の改善
	主な施設		骨格的な交通軸

0 200 500 1000M

- 主な施設名称**
1. 駅前バスターミナル
 2. 苫小牧警察署
 3. 苫小牧郵便局
 4. 白鳥アリーナ
 5. 苫小牧総合病院診療棟
 6. 苫小牧総合病院診療棟
 7. 市民体育館
 8. 苫小牧児童館
 9. 中央図書館
 10. サンガーデン
 11. 消防署
 12. 博物館
 13. 理髪文化財調査センター
 14. 総合体育館
 15. 市民会館
 16. 市民センター
 17. 苫小牧警察署
 18. 苫小牧警察署
 19. 苫小牧警察署
 20. 苫小牧警察署
 21. 科学センター
 22. 市民会館
 23. 苫小牧警察署
 24. 苫小牧警察署
 25. 苫小牧警察署
 26. 苫小牧警察署
 27. 保健センター
 28. 老人福祉センター
 29. 苫小牧市心身障害者福祉センター
 30. 苫小牧市心身障害者福祉センター
 31. 苫小牧市心身障害者福祉センター
 32. 苫小牧市心身障害者福祉センター
 33. 苫小牧市心身障害者福祉センター
 34. 苫小牧市心身障害者福祉センター

中央部中地域の整備構想図



凡 例

	計画的に整備された住環境の保全地
	良好な住環境の形成地
	住環境の改善地
	軸心型の住居地
	中心商業・業務地
	沿道サービス型の商業・業務地
	日常生活圏を支える商業地
	流通業務地
	産業集積を図る工業用地
	海と親しめる工業地

	地域区分
	市街化区域
	J R・駅
	自動車専用道路
	都市計画道路等
	河川・水辺
	公園・緑地等
	学校
	主な施設

- 主な施設名称
1. 駅前バスターミナル
 2. 苫小牧森林署
 3. 苫小牧郵便局
 4. 白鳥アリーナ
 5. 五等郵便局
 6. 五等郵便局出張所
 7. 五等郵便局出張所
 8. 苫小牧消防センター
 9. 中央区農産物
 10. サンガーデン
 11. 消防署
 12. 消防署
 13. 理容文化広場センター
 14. 理容文化広場
 15. 理容文化広場
 16. 理容文化広場
 17. 苫小牧警察署
 18. 苫小牧警察署
 19. 苫小牧警察署
 20. 苫小牧警察署
 21. 苫小牧警察署
 22. 苫小牧警察署
 23. 苫小牧警察署
 24. 理容文化広場
 25. 文化会館
 26. 渡辺・休日急病センター
 27. 渡辺センター
 28. 渡辺センター
 29. 渡辺センター
 30. 苫小牧市立総合病院
 31. 苫小牧市立総合病院
 32. 苫小牧市立総合病院
 33. 苫小牧市立総合病院
 34. 苫小牧市立総合病院

2-5 中央部東地域

(1) 中央部東地域の現況特性

① 地域の概要・沿革

中央部東地域は、苫小牧市の都心部の東側に位置する地区です。地域の両端に一部住宅市街地がある他は、苫小牧港（西港区）の背後地の工業地域となっています。幌内川の上流部は北海道大学苫小牧研究林となっており、水道の取水施設があるなど苫小牧市の重要な河川の一つとなっています。

もともとは湿地帯でしたが、昭和30年代に苫小牧港（西港区）の掘り込み工事に伴う土砂で埋め立てられ、道道苫小牧環状線より北側は主に工業団地として造成・分譲されました。一方、南側は昭和50年代後半から土地区画整理事業によって整備された地域です。

臨海部には、電力、石油精製の他、非鉄金属、配合飼料など多種多様な企業が立地し、一大臨海工業地帯が形成されています。

② 人口・世帯数の状況

人口はこの10年間は横ばいですが、世帯数については増加を続けています。高齢化率は14%と、全市より低くなっていますが、高齢化が進んでいます。

③ 都市基盤の整備状況

道道苫小牧環状線と国道36号に挟まれた西側の地区が住居系の地区となっています。それ以外は臨港地区を中心とした工業系の土地利用となっています。道道上厚真苫小牧線から北側の工業地は、特別工業地区として住宅を排除した工業系の土地利用に特化しています。

道道苫小牧環状線、国道36号、道道上厚真苫小牧線などの主要な幹線道路が東西方向に走っており、自家用車による交通利便性の高い地区となっています。

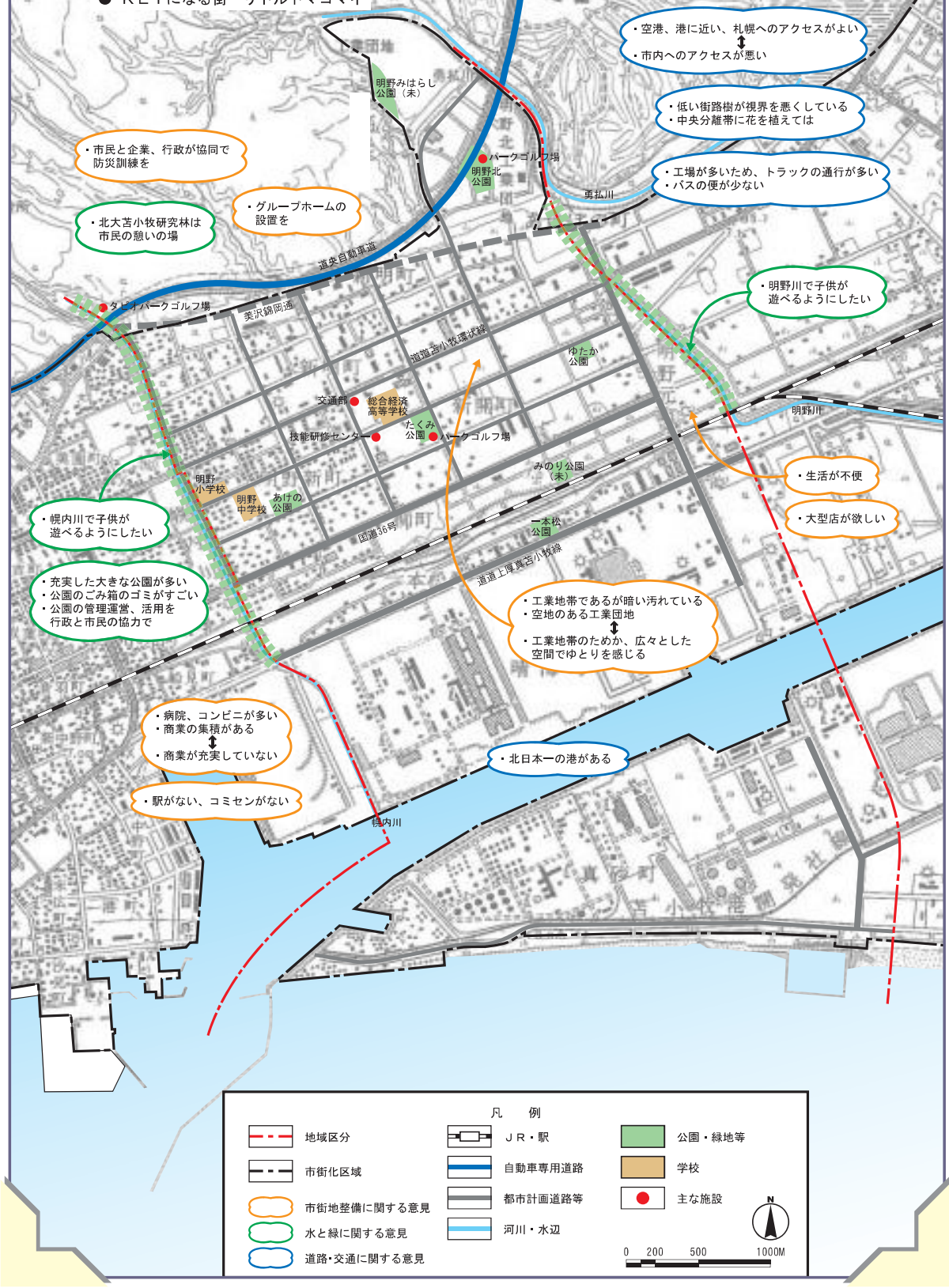
住居系の地区は、土地区画整理事業によって計画的に近隣公園、街区公園が整備されています。

人口・世帯数の推移と高齢化の状況

地域名	人口		人口増減率 H12-22	世帯数		世帯増減率 H12-22	世帯人員数 人/世帯	高齢者	
	H12年	H22年		H12年	H22年			高齢者数	高齢化率
西部西	27,123	25,794	95%	10,588	11,492	109%	2.24	5,915	23%
西部東	45,871	42,335	92%	18,048	19,507	108%	2.17	9,817	23%
中央部西	26,360	23,324	88%	11,933	12,086	101%	1.93	6,489	28%
中央部中	43,289	41,644	96%	20,391	21,532	106%	1.93	8,849	21%
中央部東	12,682	12,730	100%	4,963	5,879	118%	2.17	1,821	14%
東部	17,842	28,311	159%	7,194	12,149	169%	2.33	3,380	12%
全市	173,167	174,138	101%	73,117	82,645	113%	2.11	36,271	21%

中央部東地域の資源、アイデアマップ (地域別懇談会より)

- アクセス向上し、利便性をあげたい
- KEYになる街・リゾートマコマイ



・市民と企業、行政が協同で防災訓練を

・グループホームの設置を

・北大苫小牧研究林は市民の憩いの場

・幌内川で子供が遊べるようにしたい

・充実した大きな公園が多い
・公園のごみ箱のゴミがすごい
・公園の管理運営、活用を行政と市民の協力で

・病院、コンビニが多い
・商業の集積がある
・商業が充実していない

・駅がない、コミセンがない

・空港、港に近い、札幌へのアクセスが良い
・市内へのアクセスが悪い

・低い街路樹が視界を悪くしている
・中央分離帯に花を植えては

・工場が多いため、トラックの通行が多い
・バスの便が少ない

・明野川で子供が遊べるようにしたい

・生活が不便
・大型店が欲しい

・工業地帯であるが暗い汚れている
・空地のある工業団地
・工業地帯のためか、広々とした空間でゆとりを感じる

・北日本一の港がある

凡例			
	地域区分		公園・緑地等
	市街化区域		学校
	市街地整備に関する意見		主な施設
	水と緑に関する意見		
	道路・交通に関する意見		0 200 500 1000M
	JR・駅		
	自動車専用道路		
	都市計画道路等		
	河川・水辺		

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号)平16道復第329号

(2) 中央部東地域の主要な課題

- 苫小牧市の中心的な工業地として、周辺の住宅地との調和を図りながら、環境関連産業、研究開発型産業などこれからの産業の立地・集積を図ることが求められています。
- 港湾周辺の工業地の利便性を高めるとともに、通過交通を排除し、生活道路の安全性を高める交通体系の整備を図ることが求められています。
- 幌内川の緑地空間を、より市民に親しまれるよう充実させることが求められています。また、企業の協力を得ながら工業地の緑化を進めることが求められています。
- 工業地と住宅地が隣接することから、企業と連携した防災対策の充実、強化を図ることが求められています。

(3) 中央部東地域の将来像

緑と水辺を活かした、誰もが住みよい地域づくり

苫小牧港（西港区）の背後地に計画的に整備された工業地と、一部に計画的に整備された良好な住宅地があるとともに、幌内川が流れ、上流部には北海道大学苫小牧研究林と水道の取水施設がある自然にも恵まれた地域特性を活かし、工業地と住宅地との調和を図りながら緑と水辺を活かした誰もが住みよい地域を目指します。

(4) 中央部東地域の整備方針

① 地域整備の考え方

J R室蘭本線以北の工業地は流通業務ゾーンに設定し、周辺の住宅地との調和を図りながら、卸売業、軽工業など流通業務に係わる機能の集積を図ります。苫小牧港（西港区）周辺の工業地は産業集積ゾーンに設定し、各種企業の立地誘導を図ります。

美沢錦岡通、国道36号、道道上厚真苫小牧線を東西方向の骨格的な交通軸とし、広域的な交通流動、通過交通に対応します。国道36号沿道は沿道景観形成ゾーンに設定し、立地企業の参加協力による沿道景観の改善や計画的な誘導を図ります。

道道苫小牧環状線を地域の生活軸とし、日常の生活利便施設が立地する生活中心拠点形成ゾーンを配置します。

幌内川、明野川沿いを水と緑の軸とし、水と緑に親しめる空間の形成を図ります。



西 港 区

② 部門別の整備方針

【土地利用の方針】

JR室蘭本線以北の工業地は流通業務地、苫小牧港（西港区）周辺の工業地は産業集積を図る工業専用地とし、各種企業の立地誘導を図ります。

住宅地部分については良好な住環境の維持・保全を図るとともに、地域住民の日常生活を支える商業地の形成を図ります。

【交通体系の整備方針】

港湾周辺の工業地の利便性を高めるとともに、通過交通に対応した主要幹線道路として美沢錦岡通、国道36号、道道上厚真苫小牧線の整備を進めます。

生活軸に設定した道道苫小牧環状線の住宅地部分を中心に、バリアフリーへの配慮などによる誰もが安心して歩ける歩道の整備や、自転車専用レーンの設置を図ります。

【水と緑の形成方針】

明野川の整備とあわせて、町内会での河川の清掃など地域住民の維持・管理活動や整備計画づくりへの参加を促しながら、水と緑に親しめる空間の形成を図ります。

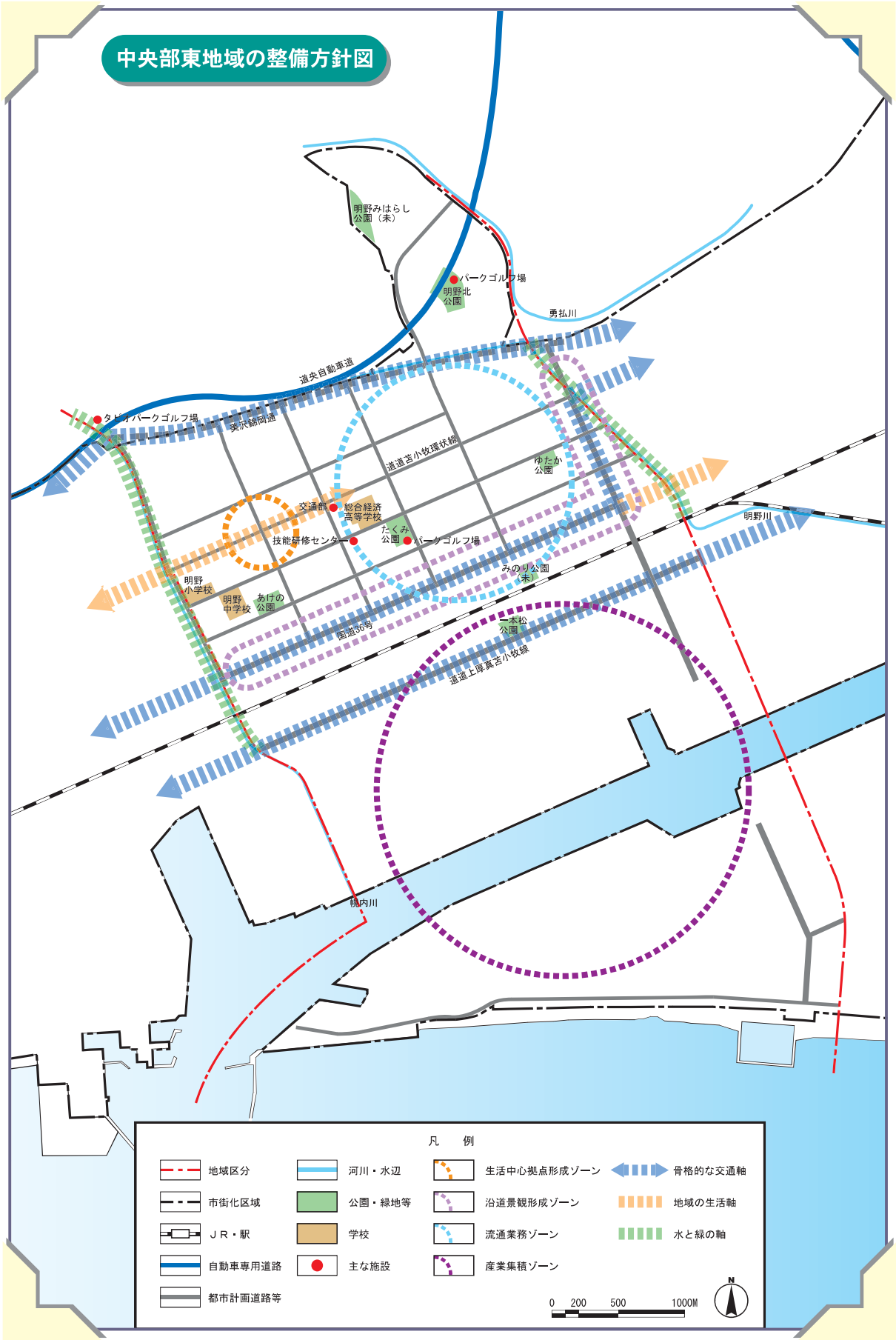
【都市防災の方針】

工業地に隣接する地域として、住民、企業、行政が連携した防災体制づくりを進めるとともに、日常的な住民の交流機会や活動の場を積極的に提供・促進し、地域住民一人ひとりの防災意識と災害時の対応力の向上を図ります。



たくみ公園パークゴルフ

中央部東地域の整備方針図

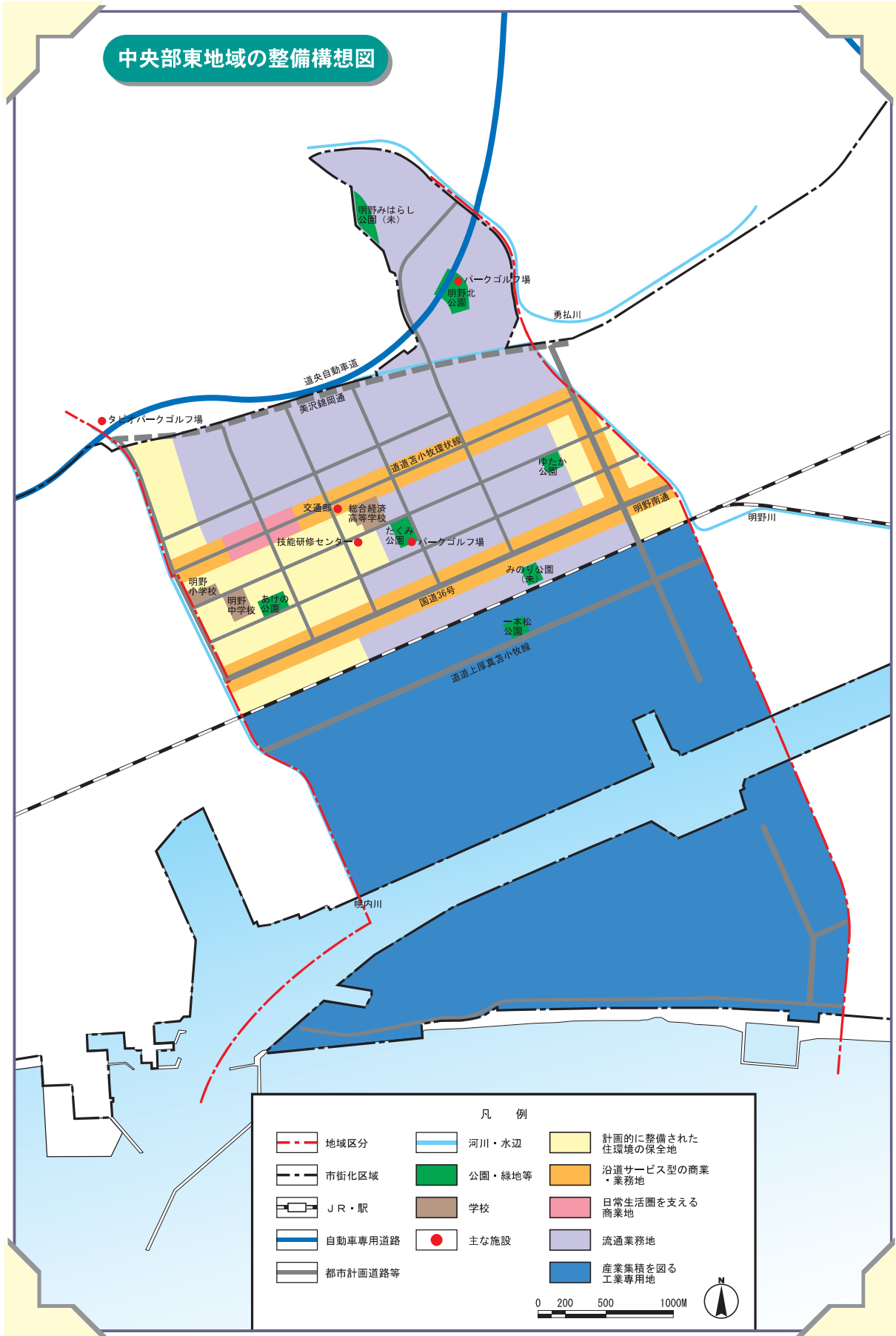


凡 例			
	地域区分		河川・水辺
	市街化区域		公園・緑地等
	J R・駅		学校
	自動車専用道路		主な施設
	都市計画道路等		生活中心拠点形成ゾーン
			沿道景観形成ゾーン
			流通業務ゾーン
			産業集積ゾーン
			骨格的な交通軸
			地域の生活軸
			水と緑の軸

0 200 500 1000M

N

中央部東地域の整備構想図



凡 例			
	地域区分		計画的に整備された住環境の保全地
	市街化区域		公園・緑地等
	J R ・ 駅		学校
	自動車専用道路		主な施設
	都市計画道路等		沿道サービス型の商業・業務地
			日常生活圏を支える商業地
			流通業務地
			産業集積を図る工業専用区

2-6 東部地域

(1) 東部地域の現況特性

① 地域の概要・沿革

東部地域は、苫小牧市街地の最も東に位置し、美々川、ウトナイ湖、勇払川など豊かな水辺環境に恵まれるとともに、製紙・自動車関連工場など苫小牧市の基幹産業が立地し、港湾周辺に国際的な物流機能などが集積している地域です。

本地域は大きく勇払地区と沼ノ端地区、植苗地区によって構成されています。

勇払地区は、本市で最も古くから栄えた地であり、苫小牧港（西港区）と産業立地により市内有数の工業集積地となっています。

沼ノ端地区は、昭和50年代後半から土地区画整理事業によって住宅地、流通・軽工業地が整備され、近年人口の増加が著しいことに加え、空港、高速道路に隣接するなど交通の要衝にあることから、市内東部の拠点地区としての役割を担いつつあります。

植苗地区は、国道36号沿いの軽工業地域を中心に市街化が進んでいますが、面的な基盤整備は未整備であることから、今後の計画的な整備が必要な地区です。

② 人口・世帯数の状況

全市的にみて唯一人口が増加している地域となっており、特に沼ノ端地区の人口はこの10年間で1.8倍に増加しています。全市の人口が横ばいであることから、西部、中央部からの人口流入が伺えます。一方で勇払地区は引き続き減少が続いています。地域全体の高齢化率は12%と最も低くなっていますが、勇払地区の高齢化率は26%と高齢化の進展が著しくなっています。

③ 都市基盤の整備状況

新千歳空港の至近に位置するとともに、国道36号、国道234号、道央自動車道の苫小牧東インターチェンジ、日高自動車道の沼ノ端東インターチェンジ、さらには苫小牧港を擁し、苫小牧市のみならず、陸・海・空にわたる道央地域の広域交通の結節点として、人との物の流動の一大要衝となっています。

ラムサール登録湿地であるウトナイ緑地がある他、土地区画整理事業によって計画的に近隣公園、街区公園が配置整備されています。また、勇払には八王子千人同心を偲ぶ公園、史跡があります。

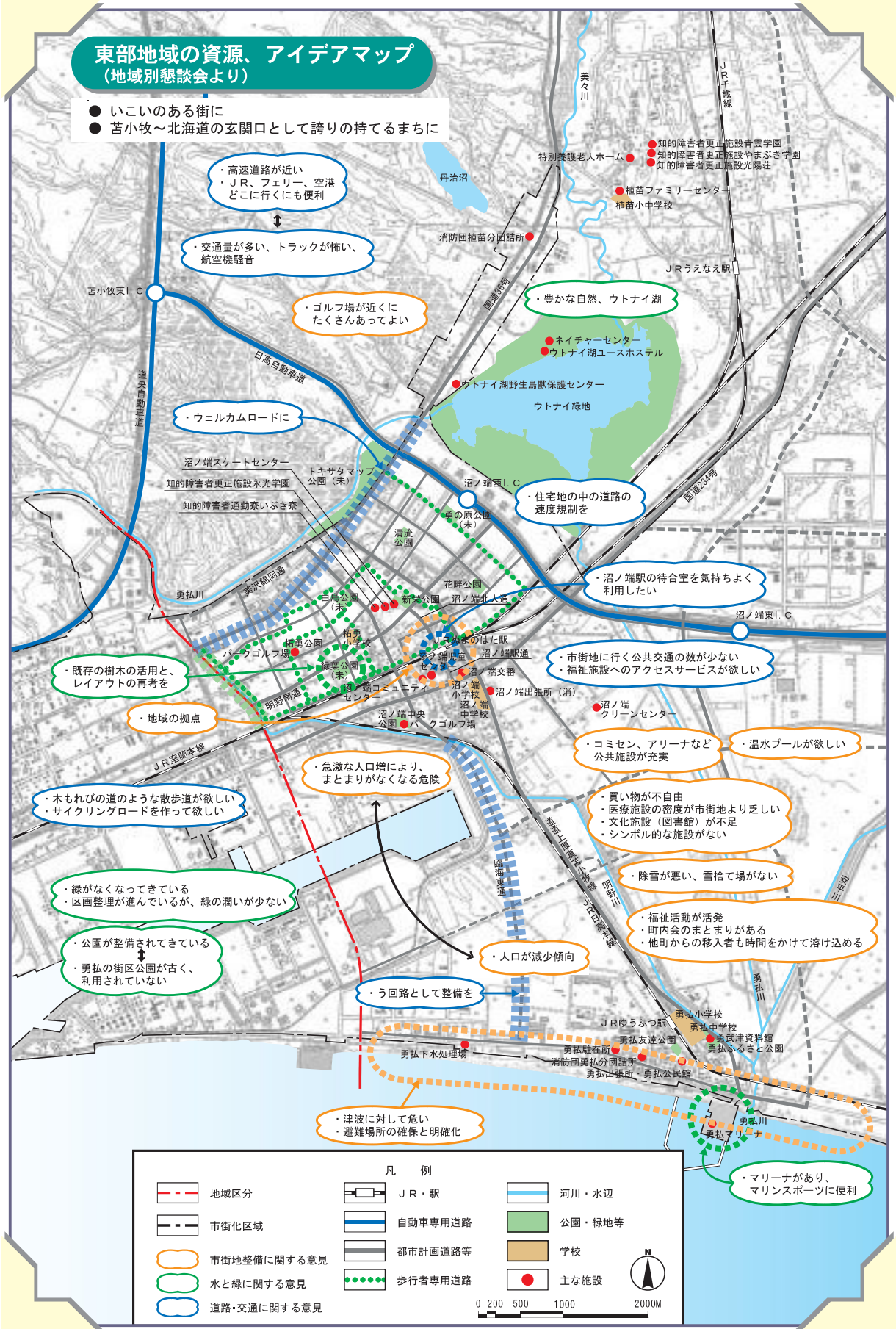
「沼ノ端スケートセンター」、「沼ノ端コミュニティセンター」、「勇払公民館」、「植苗ファミリーセンター」など地域の交流拠点となる施設の他、「沼ノ端クリーンセンター」、「勇払下水処理場」などの都市施設が立地しています。

人口・世帯数の推移と高齢化の状況

地域名	人口		人口増減率 H12-22	世帯数		世帯増減率 H12-22	世帯人員数 人/世帯	高齢者	
	H12年	H22年		H12年	H22年			高齢者数	高齢化率
西部西	27,123	25,794	95%	10,588	11,492	109%	2.24	5,915	23%
西部東	45,871	42,335	92%	18,048	19,507	108%	2.17	9,817	23%
中央部西	26,360	23,324	88%	11,933	12,086	101%	1.93	6,489	28%
中央部中	43,289	41,644	96%	20,391	21,532	106%	1.93	8,849	21%
中央部東	12,682	12,730	100%	4,963	5,879	118%	2.17	1,821	14%
東部	17,842	28,311	159%	7,194	12,149	169%	2.33	3,380	12%
うち沼ノ端	13,172	24,358	185%	5,088	10,115	199%	2.41	2,346	10%
うち勇払	2,983	2,349	79%	1,176	1,077	92%	2.18	609	26%
全市	173,167	174,138	101%	73,117	82,645	113%	2.11	36,271	21%

東部地域の資源、アイデアマップ (地域別懇談会より)

- いこいのある街に
- 苫小牧～北海道の玄関口として誇りの持てるまちに



(2) 東部地域の主要な課題

- 沼ノ端駅周辺の住宅地の計画的な整備を進めることや、工業系の未整備地区における市街地の形成を図ることが求められています。苫小牧東部地域の複合開発の推進を図ることが求められています。
- 地域の生活の拠点となる交流や医療・福祉機能が集積した地区の形成を図ることが求められています。
- 市内の東部に位置する地域として、中心市街地や西部の住宅地と本地域を結ぶ東西方向の交通体系の整備を図ることや、港湾周辺の工業地域を結ぶ南北方向の交通体系の整備を図ることが求められています。
- ウトナイ湖、美々川など苫小牧市を代表する水辺空間を、より市民や来訪者に親しまれるよう充実させることが求められています。
- 津波災害などに備えた、地域住民が主体となった防災対策の充実、強化を図ることが求められています。

(3) 東部地域の将来像

苫小牧市の玄関口として誇りの持てる、住みよい地域づくり

本市で最も古くから栄えた地である勇払地区、計画的な市街地整備が進められている沼ノ端地区の主要な市街地、それらを囲む広大な勇払原野、ウトナイ湖、美々川など豊かな自然環境を有し、交通の要衝として産業が集積している地域特性を活かし、苫小牧市の玄関口として誇りの持てる、住みよい地域を目指します。

(4) 東部地域の整備方針

① 地域整備の考え方

明野南通、沼ノ端北大通、沼ノ端駅通を地域の生活軸とし、JR 沼ノ端駅周辺を苫小牧市東部のコミュニティ拠点（第2章の都市構造参照）として生活利便機能の集積を図ります。また、勇払地区に日常の生活利便施設が立地する生活中心拠点ゾーンを配置します。

JR 沼ノ端駅の北東側、及び植苗地区の市街化区域内と市街化調整区域の既存市街地を市街地形成ゾーンとし、計画的な市街地形成と住環境の改善を図ります。

苫小牧港（西港区）周辺の工業地は産業集積ゾーンに設定し、加工組み立て型産業や研究開発型産業など高付加価値型産業の立地誘導を図ります。

東西方向と南北方向の骨格的な交通軸を設定し、広域的な交通流動、通過交通に対応するとともに、苫小牧市の東の入り口にあたる部分を沿道景観形成ゾーンとし、道路・建物景観の改善や計画的な誘導などを図ります。

ウトナイ湖、美々川周辺は水と緑の交流ゾーンとし、また、植苗・美沢地区は豊かな森林を活用し森林共生ゾーンとして自然を守り、活かした交流の場の形成を図るとともに、新千歳空港に近接する地理的優位性を活かした国際的な交流拠点の核として活用を図ります。

② 部門別の整備方針

【土地利用の方針】

J R沼ノ端駅周辺に、地域住民の日常生活を支える商業地の形成を図り、苫小牧市東部の都市的サービスや市民交流の拠点とします。

苫小牧港（西港区）周辺の工業地は産業集積を図る工業専用地とし、企業の立地誘導を図ります。国道36号沿いの地区は流通業務地とし、物流や卸売関連の企業の立地誘導を図るとともに、企業の協力による良好な沿道景観の形成を促します。

勇払川以东の苫小牧東部地域は、「苫小牧東部開発新計画（平成7年）」に基づき、産・学・住・遊を備える複合開発の推進に向けて、国・北海道と調整しつつ、環境調和型産業などの立地誘導を図っていくものとします。

【交通体系の整備方針】

通過交通に対応した主要幹線道路として美沢錦岡通、道道上厚真苫小牧線の整備を進めます。また、苫小牧東部地域は、「苫小牧東部開発新計画（平成7年）」に基づき、幹線道路の整備を図ります。

交通結節点であるJ R沼ノ端駅周辺は、鉄道の南北を連絡する自由通路や交通広場等の整備・充実により、通勤・通学など日常生活の利便性・快適性及び地域の拠点性の向上を図ります。

生活軸に設定した明野南通、沼ノ端北大通、沼ノ端駅通を中心に、バリアフリーへの配慮などによる誰もが安心して歩ける歩道の整備や、自転車専用レーンの設置を図ります。

【水と緑の形成方針】

ウトナイ湖、美々川など苫小牧市を代表する水辺の自然環境の保全・再生を図るとともに、観察施設や散策路の設置などによって、水と緑に親しめる空間の形成を図ります。



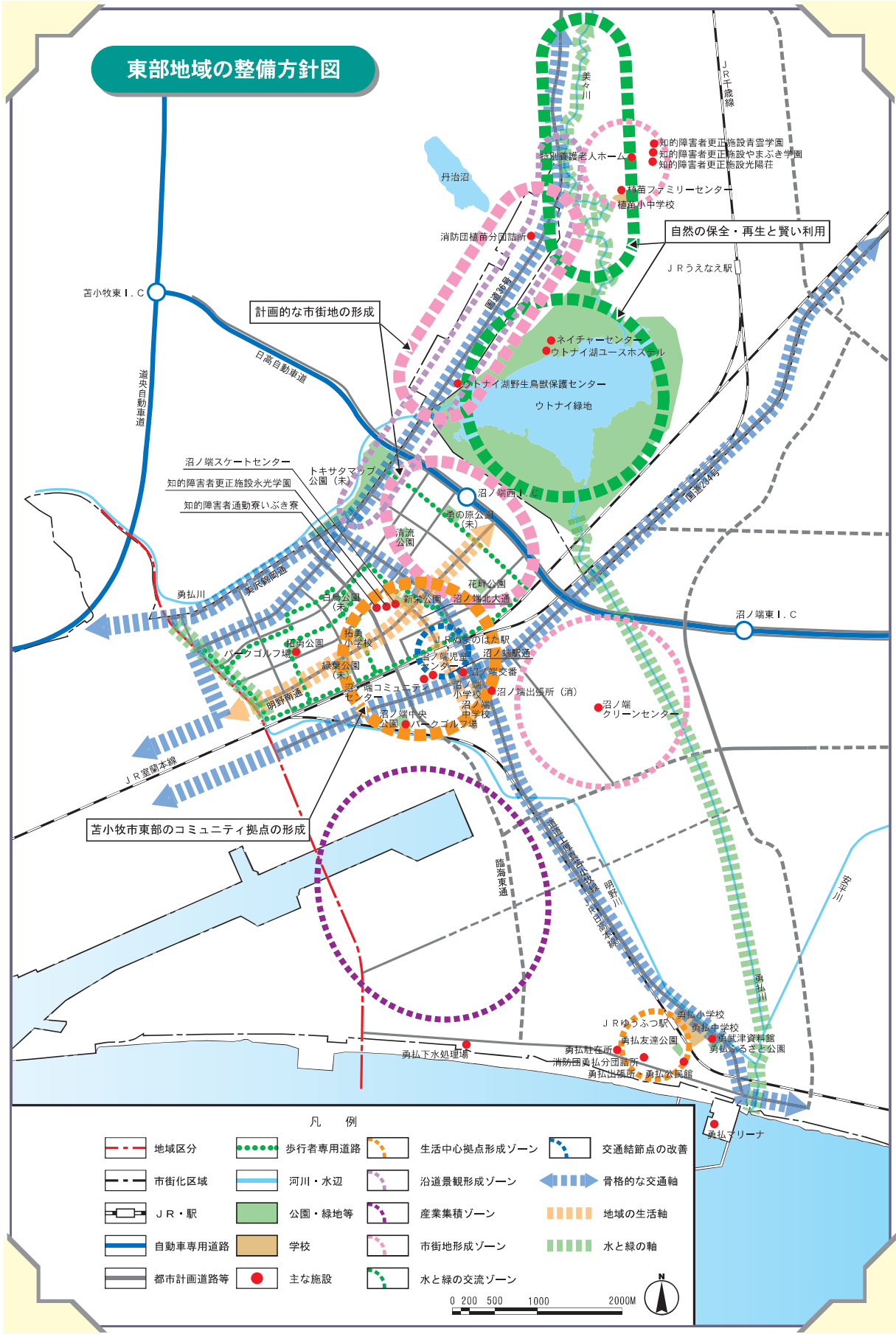
ウトナイ湖

【都市防災の方針】

津波災害などに備えた避難場所、避難路の整備を進めるとともに、防災マップの作成と配布などにより、住民への周知徹底を図ります。

日常的な住民の交流機会や活動の場を積極的に提供・促進し、地域住民一人ひとりの防災意識と災害時の対応力の向上を図ります。

東部地域の整備方針図



凡例

	地域区分		歩行者専用道路		生活中心拠点形成ゾーン		交通結節点の改善
	市街化区域		河川・水辺		沿道景観形成ゾーン		骨格的な交通軸
	J R・駅		公園・緑地等		産業集積ゾーン		地域の生活軸
	自動車専用道路		学校		市街地形成ゾーン		水と緑の軸
	都市計画道路等		主な施設		水と緑の交流ゾーン		



東部地域の整備構想図



凡例

	地域区分		歩行者専用道路		計画的に整備された住環境の保全地		日常生活圏を支える商業地
	市街化区域		河川・水辺		良好な住環境の形成地		流通業務地
	JR・駅		公園・緑地等		住環境の改善地		産業集積を図る工業等用地
	自動車専用道路		学校		沿道サービス型の商業・業務地		環境調和型産業の立地誘導地
	都市計画道路等		主な施設				





第6章

実現化の方策

1. まちづくりの仕組み・体制
2. 段階的なまちづくりの実践
3. 実現化の方策

都市計画マスタープランの実現化に向けた仕組み・体制や取り組みの方針などを示します。

1. まちづくりの仕組み・体制

都市計画マスタープランの実現に向けて、都市の将来像、まちづくりの目標や基本方針などの基本的な考え方を共有しながら、市民、事業者、行政がパートナーシップを組んで進めていくことが重要です。

そのために、行政による必要な情報の公開と説明、市民、事業者の自発的、自立的なまちづくりの取り組みに対する支援、誘導などを行うものとします。

また、都市計画マスタープランの基本方針に則った施策・事業の実施にあたっては、市民、事業者などの参加と協力を得ながらまちづくりを進めていきます。

(1) 市民参加の体制づくり

都市計画マスタープランの策定にあたって組織した「まちづくり懇談会」、「地域別懇談会」などの取り組みを活かして、市民、事業者、行政が同じテーブルで都市計画マスタープランに基づく施策・事業の実現に向けた課題の検討などの話し合いを行える場づくりを検討します。

都市計画マスタープランの取り組み状況などの情報を、広報誌、インターネットのホームページなどを活用して、幅広く市民に伝えます。

まちづくりに関する相談を受けたり、アドバイスできるような体制整備に努め、市民、事業者の具体的なまちづくり活動に対する支援や、NPOなどの市民組織づくりの支援などを行います。



まちづくり懇談会

(2) 庁内の組織体制の充実

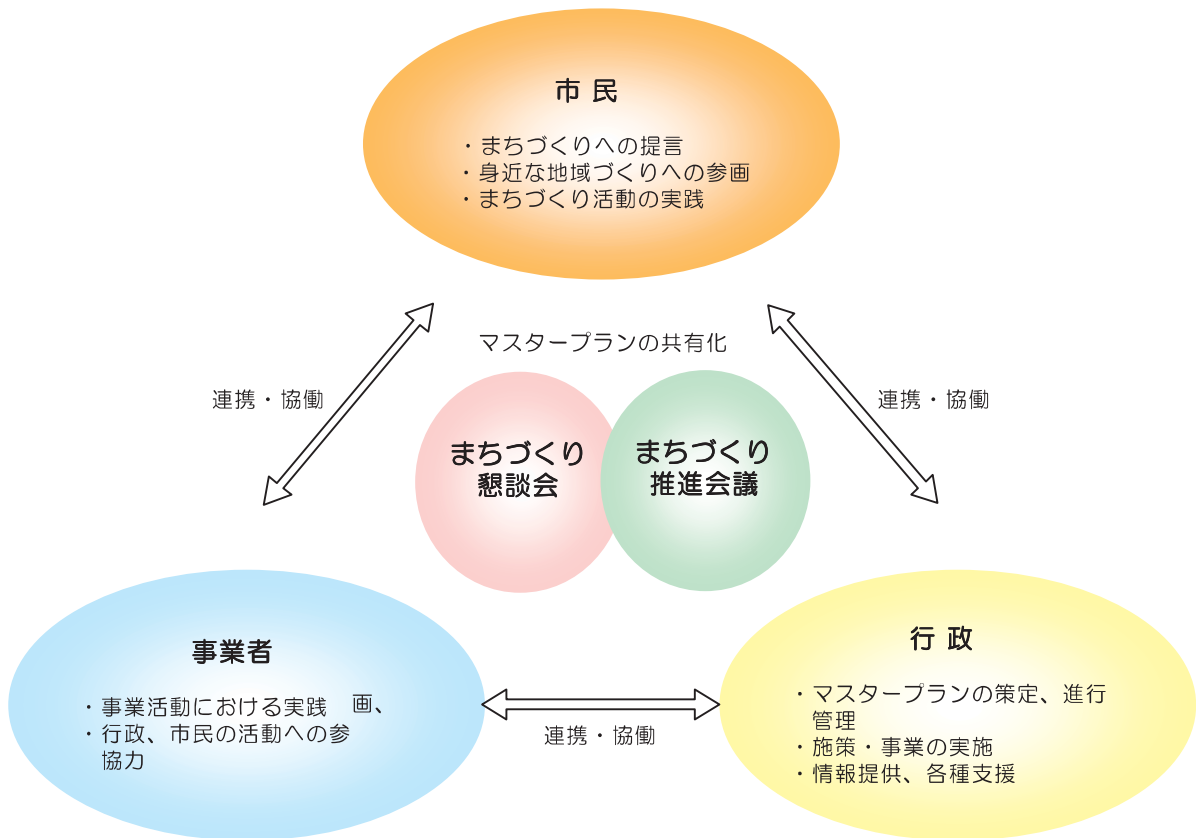
庁内の関係各部課で組織された「まちづくり推進会議」などを活用しながら、都市計画マスタープランに基づく施策・事業の実施やまちづくりの進行管理を行います。

また、社会情勢の変化に対応し行政機構を見直します。

(3) 関係機関との調整・協力体制づくり

苫小牧市は道央圏に位置する拠点都市であり、交通や産業面など広域的に重要な役割を担っています。

このため、都市計画マスタープランの進捗状況の把握や広域調整に向けて、国や北海道などの関係機関、さらには周辺市町との調整や協力体制[※]を充実します。



パートナーシップによるまちづくりの推進体制イメージ

※周辺市町との調整や協力体制

苫小牧圏広域都市計画協議会、苫小牧地方総合開発期成会、東胆振広域圏進行協議会などが、周辺市町との調整や協力体制として活動しています。

2. 段階的なまちづくりの実践

(1) 段階的なまちづくりの考え方

都市計画マスタープランの実施過程にあわせて、市民、事業者、行政がパートナーシップを組んでまちづくりを進めていくためには、頭で考えるだけでなく、ともに体を動かして具体的なアクション（行動）を起こすことが大切です。

そのために、例えば身近な道路や公園等の簡易な整備の取り組みなど、モデル的・実験的にできることから少しずつ実行して実績を積み重ねることによって、段階的に次のステップへとつなげていくものとします。

(2) 実現化のステップ

① 短期的なステップ：まちづくりのきっかけ・誘導

第2章、第3章で示した都市の将来像、まちづくりの目標、将来の都市構造及びまちづくりの基本方針など苫小牧市全体の骨格的な都市計画の方針を受けながら、地域別構想に位置づけられた各地域の将来像、整備方針の実現に向けて、小さくても具体化できる施策・事業を検討し、市民主体の活動のきっかけづくり、誘導につなげます。

実施にあたっては、市民の主体的な参加を促すとともに、市民活動に対する支援策などソフト施策も含めてできることから順次実施するものとします。



② 中期的なステップ：まちづくり事業・施策の実施

短期的なステップでの実績をもとに、連鎖的、波及的な施策・事業の展開を目指します。

また、市街化区域・市街化調整区域の区域区分、用途地域等の地域地区の設定、都市施設の設置、市街地開発事業の実施、地区計画など、新規に都市計画決定や都市計画の変更が必要なものは、事業化や見直しの時期等にあわせて適宜実施します。



③ 長期的なステップ：点検・評価と次への展開

上位計画である総合計画などの改定時期などにあわせて、都市計画マスタープランの点検・評価や施策・事業の見直しを行い、次への展開に向けた新しい施策・事業の検討を行います。

3. 実現化の方策

都市計画マスタープランの実現化にあたっては、さまざまな施策・事業を地域の実情等に応じて適宜組み合わせながら実施するとともに、都市計画提案制度[※]等を活用することにより、市民、事業者、行政の協力のもと、まちづくりを実践していくものとします。

実現化の方策として、都市施設・市街地開発事業等による事業の実施、地域地区の適切な指定、地区計画、協定等によるまち並みの誘導などの規制誘導策、及び市民の活動支援についての基本的な考え方を以下に示します。

① 事業の実施について

地域の骨格となる道路に関しては、地域住民の理解と協力を得ながら、街路事業による整備を進めるとともに、身近な生活道路については道路改良事業等による整備を図ります。中央部へのインターチェンジの設置については、事業主体の検討を含めた事業手法の検討を行います。

「生活中心拠点形成ゾーン」、「都市機能集積ゾーン」、「市街地形成ゾーン」の整備に向けては、土地利用の高度化等の必要性に応じて、地域住民、企業が主体となった再開発の促進や建築物等の更新・整備を図るとともに、高齢者向け優良賃貸住宅等の立地誘導を進めます。市街化区域内の未整備地区については、土地区画整理事業や開発行為等による計画的な市街地整備を進めます。

河川空間や漁港区周辺及び海岸の整備に関しては、他の事業との連携による整備を進めます。

103

② 規制誘導について

地域の整備方針に従って、地域地区の適切な指定を行い、計画的な土地・建物利用の実現を図ります。

地域内の良好な住環境の維持・向上、あるいは地域独自のまちづくりを進めるため、住民の自発的な参加を前提に地区計画制度の活用をより積極的に支援します。

地域住民等の主体的な活動による住環境の維持・向上を支援するため、住民及び企業を含めた緑地協定、まちづくり協定や建築協定などの活用を図ります。

③ 市民の活動支援について

各地域で行われている河川や公園の清掃活動など住民の自発的なまちづくり活動の実績を母体に、住民が主体となったまちづくりを進めるため、道路や公園等の公共施設において、住民等のボランティアによる環境美化活動を支援する「トマコマイクリーンアップ・サポーター制度」の普及・推進を図ります。

また、それぞれの地域ごとに、将来像の実現に向けて、「地域別懇談会」での意見などを踏まえ、住民のアイデアや取り組みをまちづくりに活かすためのビジョンの検討・計画の策定に積極的に取り組みます。

※都市計画提案制度

土地所有者やまちづくりNPO法人等が、一定規模以上の土地について、土地所有者などの2/3以上の同意等一定の条件を満たした場合に、都市計画の決定や変更を提案することができる制度です。

都市計画マスタープランの主な実現化の方策

		適用可能な施策
①事業の実施	行政主体による都市計画事業	○街路事業、公園事業、下水道事業、土地区画整理事業 等
	市民・行政の協働による事業	○道路、公園等の里親制度、狭い道路改良事業、街並み景観整備事業 等
②規制・誘導	法に基づく規制・誘導制度	○地域地区 用途地域、特別用途地区、防火・準防火地域、風致地区、緑地保全地区 等 ○その他の制度 地区計画、建築協定、緑地協定、環境緑地保護地区、農業振興地域、保安林 等
	自主的なルールづくり	○まちづくり協定、景観条例、まちづくり条例 等
③市民の活動支援		○表彰制度や新しい手法などの研究 ○コミュニティ活動、ボランティア活動、NPO活動の支援 ○祭り、イベントなどの開催・運営の支援 等



苫小牧市都市計画マスタープラン

平成23年12月

発行 苫小牧市
企画編集 苫小牧市総合政策部まちづくり推進室まちづくり推進課

〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号
TEL 0144-32-6054
FAX 0144-32-3808

<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/>
